



《会計・税務の知識》 会社の存続率はどれくらい？

はじめに

起業後10年で生き残る会社の生存率はどれくらいの割合なのでしょう。そして、100年以上の業歴を持つ歴史ある企業はどれくらいの割合で存在するのでしょうか。調べてみました！

1. 起業10年後会社の生存率

会社の生存率は、経過年数によって、どのように変化するかを調べてみました。

少し古いデータになりますが、中小企業白書2006年版に、開業後10年までの事業所の生存率が記載されています。

これによれば、開業後1年以内には7割程度の事業者数に減少し、その後は次第に生存率の回復が見られ、9割程度の事業者が継続していきます。

生存率とは逆に、撤退率で考えますと、開業1年後には3割もの事業者が市場から撤退し、その後、年々、1割程度の企業が、市場から撤退していく計算となります。

2. 起業10年後の会社生存数

では、上記の生存率をもとにして、企業数に置き換えるとどうなるのでしょうか。

当初、100社の企業が開業したとすると、開業1年後には70社に減少し、そこから年々1割程度減少をしていくと、10年後には、23社しか残らない計算となります。

このように数値にしてみると、事業を継続することは、それだけでも大変なことだということがわかります。

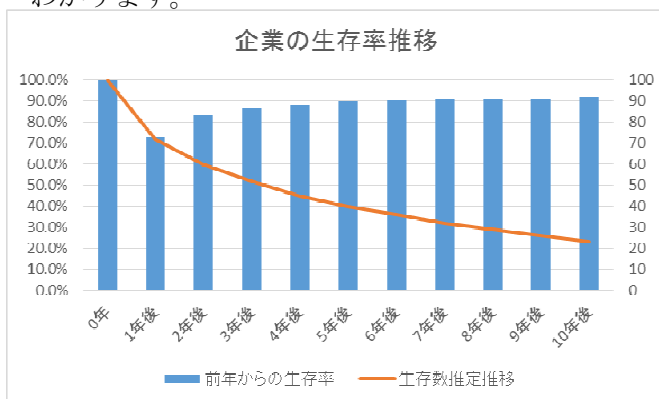


図1 企業の生存率推移 出典：中小企業白書2006年

3. 100年以上の歴史ある会社の割合は？

次に、100年以上の歴史ある企業は、日本国内にどれくらいの数があるかを見てみます。

中小企業白書2016年版に、業種別長寿企業数の一覧が記載されています。

2014年時点において、創業後100年以上経過している企業を長寿企業とした場合、創業もない企業を含めた全体の企業数の中での割合は、0.96%となり、1%にも満たない数値となります。

先ほどの統計データと合わせて考えてみると、開業時100社あった会社は、10年で約2割程度の23社に減少し、100年経過すると、1社あるかないかの生存率になると考えることができます。

100年継続する企業は、とても希少な存在であるということが言えます。

	創業または設立 100年以上(省)	創業または設立 100年未満(省)	長寿企業割合 (%)
卸売業、小売業	6,461	319,188	1.98
製造業	3,342	160,724	2.04
建設業	1,109	377,632	0.29
運輸業、郵便業	128	42,726	0.30
医療、福祉	96	59,151	0.16
不動産業、物品賃貸業	567	97,478	0.58
情報通信業	67	34,445	0.19
宿泊業、飲食サービス業	621	27,876	2.18
金融業、保険業	20	9,438	0.21
サービス業(他に分類されないもの)	209	103,329	0.20
生活関連サービス業、娯楽業	139	26,835	0.52
学術研究、専門・技術サービス業	53	54,591	0.10
農業、林業	118	11,971	0.98
鉱業、採石業、砂利採取業	12	1,373	0.87
漁業	41	1,643	2.43
電気・ガス・熱供給・水道業	0	972	0.00
教育、学習支援業	85	15,375	0.55
複合サービス事業	13	5,970	0.22
合計	13,081	1,350,717	0.96

資料：(注) 帝国データバンク「CD5M052(企業観察ファイル)」再編加工
 (注)1. 創業年数は、2014年度時点(2014年4月～2015年3月)で計算。
 2. 帝国データバンクの企業データベース登録企業のうち、創業年または設立年を確認できる中小企業について集計。

図2 長寿企業の業種別比較

出典：中小企業白書2016年

おわりに

以上、いかがでしたでしょうか。事業継続のための相談も、小谷野公認会計士事務所にご相談ください！

(担当：横瀬)